

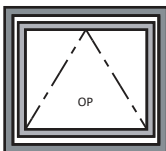
室内アイアン窓 横滑り出しタイプ 施工説明書

施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
取り付け終了後、お施主様にこの施工説明書を必ずお渡しください。

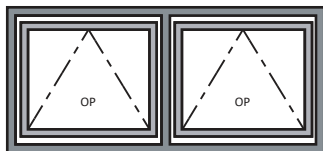
対応タイプ

本施工説明書は下記窓タイプの取付手順を説明するものです。(本文は2段4口の場合とする。)

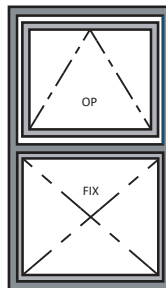
1口



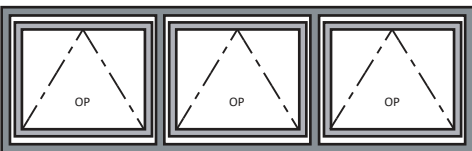
1段2口



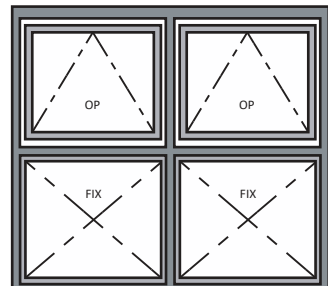
2段2口



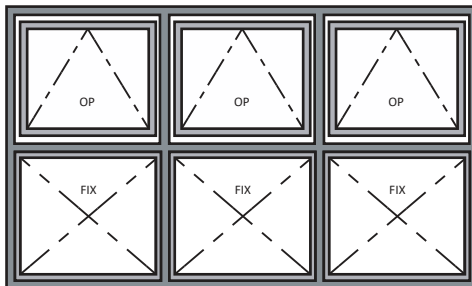
1段3口



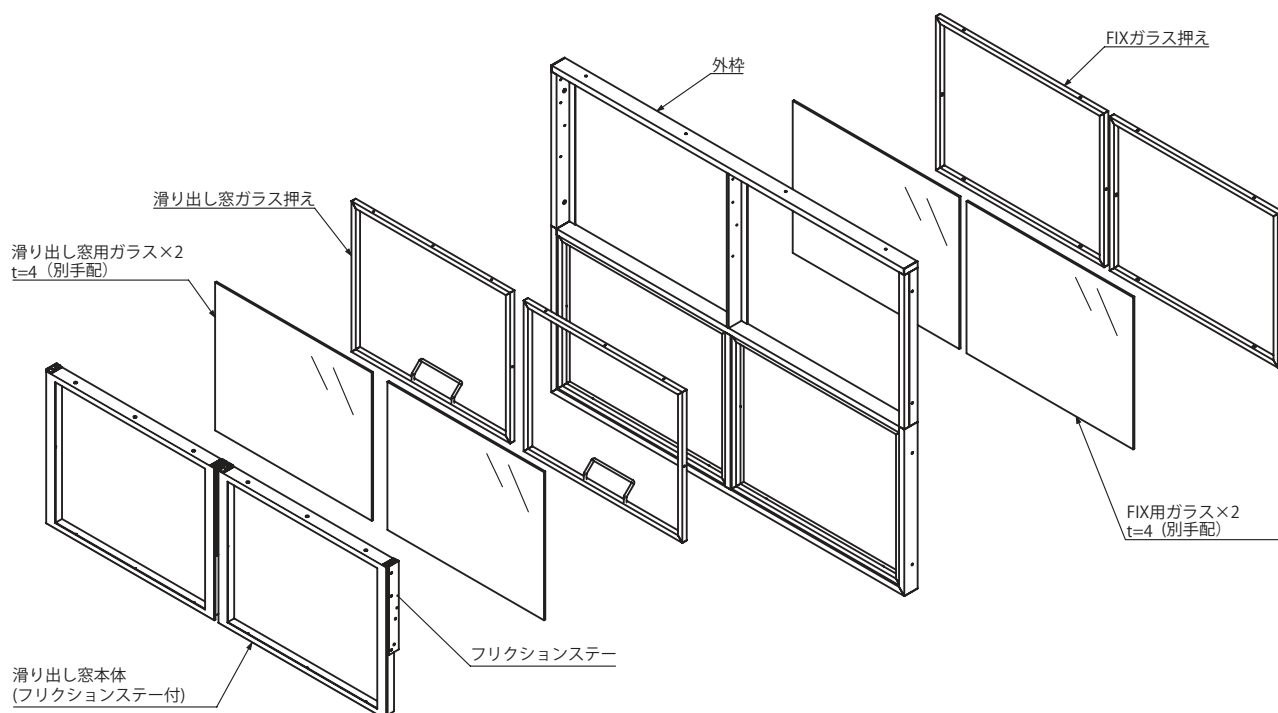
2段4口



2段6口



部品名称



付属部品

No.	部品名	備考
1	(+)小頭皿小ねじ D6M4×5	フリクションステー+縦棧
2	(+)小頭皿小ねじ D6M4×8	フリクションステー+外枠 / 滑り出し窓+ガラス押え取付
3	(+)皿タッピン 4×40	躯体+外枠取付
4	(+)小頭皿小ねじ D6M4×20	FIXガラス押え+外枠取付

⚠ 取り付け上の注意

- 1.作業は2人以上で行ってください。
- 2.本品は屋内専用窓です。屋内以外への設置は行わないでください。
- 3.指定の部品以外は使用しないでください。
- 4.本品にガラスは含まれておりません。予め寸法を確認し、ガラスの手配をしてください(ガラス厚 t=4)。ガラス取り付けの際はメタルタッチ防止の為、ガラスの周囲にパッキンを取り付けてください。
- 5.本品のビス締め付け時はインパクトドライバー等、締め付けトルクの強い電動ドライバーは使用しないでください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが破損したり、枠が変形する場合があります。
- 6.取り付け後は必要に応じてコーキングで処理をしてください。
- 7.取り付け完了後はビス止め指定箇所(ビス用穴)に締め付け漏れがないか、開閉動作は正常か、使用上の不具合がないかを確認してください。
- 8.最後に製品に汚れや異物が付着していないことを確認してください。

⚠ お手入れの方法

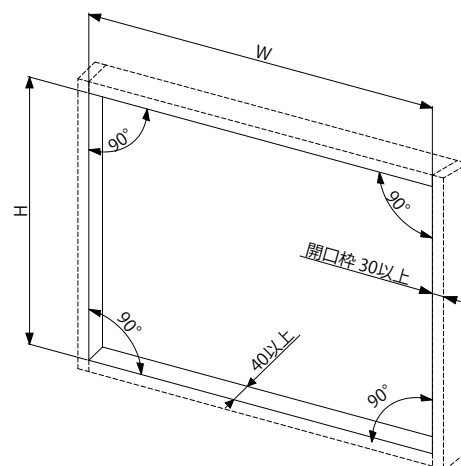
- 1.汚れが付着した場合、綿や化学繊維の柔らかい布で乾拭きしてください。
- 2.汚れがひどい場合はうすめた中性洗剤を使用し、汚れを落としてから柔らかい布で洗剤をしっかりと水拭きした後、乾いた柔らかい布で水気を拭き取ってください。
- 3.研磨剤入りの洗剤、酸性・アルカリ性の洗剤、シンナー、消毒用アルコール等は使用しないでください。キズや変色の原因となります。
- 4.使用中、ビスが緩んでくる場合があります。緩みが確認された場合は、速やかにビスを締め付けてください。

取り付け前の確認事項

- △ 枠取り付け前に必ず開口部の垂直、水平が出ているか確認してください。
開口部寸法は、下記表の寸法を確保してください。

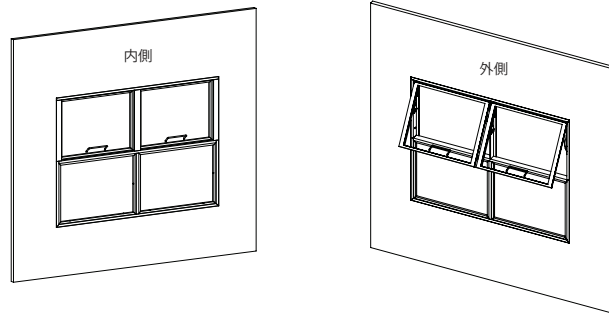
■開口部寸法表

開口W寸法	窓枠外幅+3mm
開口H寸法	窓枠外高さ+3mm

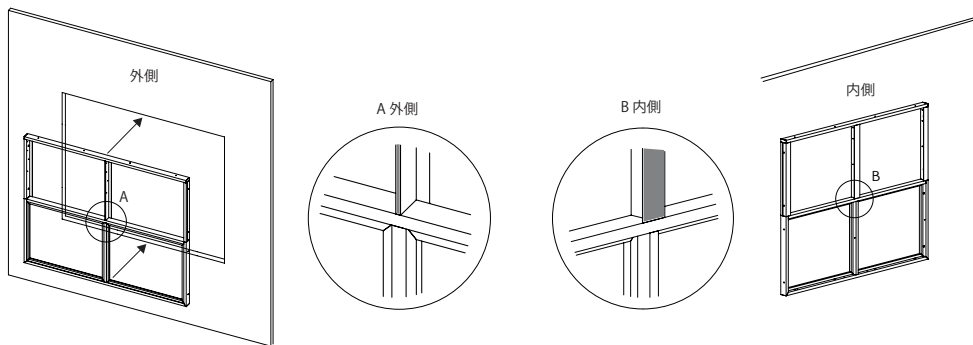


取付方法

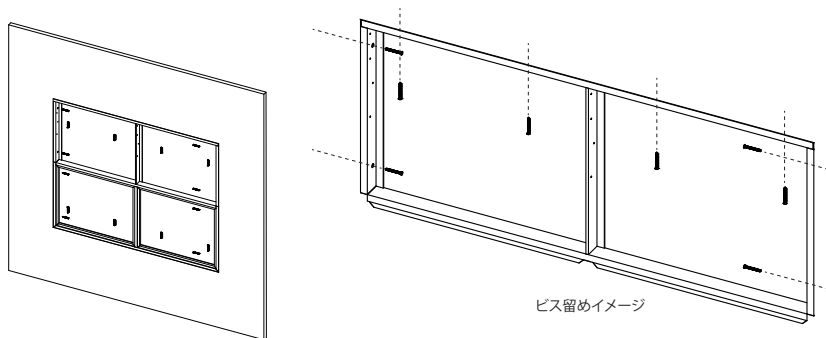
※ 取り付け前に、窓の外側と内側をご確認ください。



- ① 外枠を壁の開口部にはめて取り付ける。
※ 外枠は中央縦棧の細い方が外側、太い方が内側になります。

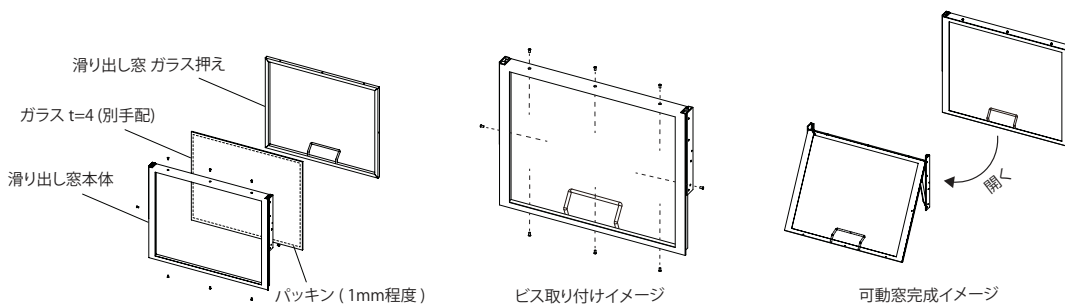


- ② 外枠を付属部品表No.3の皿タップピン4×40ビスで壁に固定する。



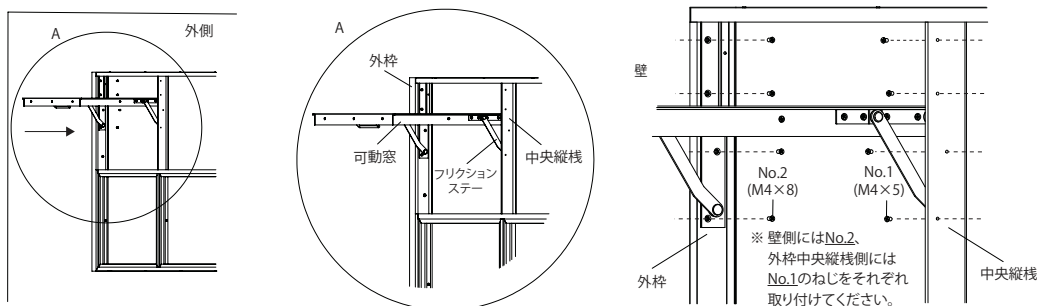
- ③ 可動窓を組み立てる。
滑り出し窓本体とガラス押えでガラスを挟み、付属部品表No.2の小頭皿小ねじM4×8で組付けて、可動窓を完成させる。フリクションステーは取り外さず組み立ててください。

※ 本製品にガラスは付属されておりません。別途 t=4 のガラスをご用意ください。
メタルタッチ防止のため、ガラス周囲に厚み1mm程度のパッキンを取り付けてください。

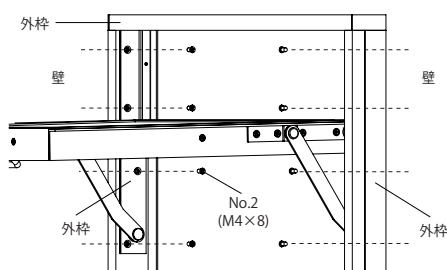


取付方法

- ④ ③の可動窓のフリクションステーを全開にした状態で、外枠にはめ込み、付属部品表No.1の小頭皿ねじM4×5と付属部品表No.2の小頭皿小ねじM4×8で取り付ける。



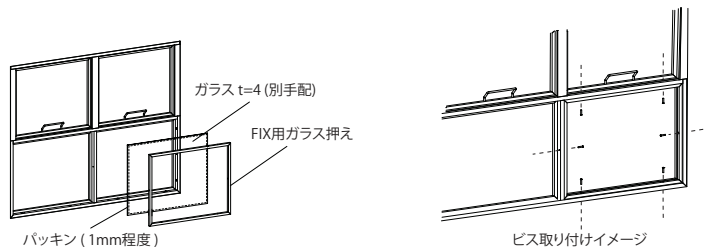
※1口タイプで取り付けを行う場合は、すべて付属部品表No.2の小頭皿小ねじM4×8で取り付けてください。



- ⑤ FIX窓を組み付ける。

内側(窓を開ける方向)からFIX用ガラス(別途手配)を外枠にはめ込み、FIXガラス押えで挟んで、付属部品表No.4の小頭皿小ねじM4×20で取り付ける。

※ メタルタッチ防止のため、ガラス周囲に厚み1mm程度のパッキンを取り付けてください。



- ⑥ 取り付けが完了したら、可動窓が正常に可動することをご確認ください。

可動確認後、破損防止の為、工事完了まで養生してください。また、必要に応じて、コーキングで処理を行ってください。

